

ア ジ ア 文 化 研 究 所
研 究 年 報
2014年
第49号

「漢胸忍令景君碑」(初拓本)に見る景雲とその周辺……………	飯塚 勝重 ……	1
唐初における国号(隋)字の字形変化		
－〈煬帝墓誌〉の発見によせて－……………	高橋 継男 ……	42 (261)
旧慣温存の臨界　－植民地朝鮮における旧慣温存政策と		
皇民化政策における総督府の「ジレンマ」－……………	吉川 美華 ……	64 (239)
善連法彦と『土耳其行紀事』……………	奥山 直司 ……	81 (222)
トゥーラン主義運動家としての今岡十一郎……………	シナン・レヴェント ……	102 (201)
新潟のフェアトレード小売店　－経営者の価値観－……………	子島 進、石附さゆみ ……	115 (188)
日汉翻译　－《天声人语》(2013.5.29)的汉语译文分析－……………	续 三义 ……	125 (178)
韓国の教育課程と日本語教科書……………	小澤 康則 ……	138 (165)
オランダにおける文氏宗親会の現状と役割……………	山本 須美子 ……	152 (151)
中国国際私法における弱者利益の保護……………	徐 瑞静 ……	170 (133)
ヴェトナム、ニントゥアン省のチャム族のリネージ調査から……………	中村 理恵 ……	182 (121)
インドネシア・地方語教育へのハングル導入の多元的背景		
－分権化、グローバル化、「危機言語」保存－……………	山口 裕子 ……	198 (105)
Changing International Investment for Global Sustainable Development		
……………	OTA Tatsuyuki ……	213 (90)

【報告】研究所プロジェクト「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と		
慣習法の関係」……………		272 (31)
【報告】研究所プロジェクト「グローバル化時代の境域社会における民族再編の		
ダイナミクス　－東南アジア・東アジアの地域間比較－」……………		302 (1)

調査・研究活動……………	303
研究会合報告……………	307
研究所所報……………	314

調査・研究活動——二〇一三年度～二〇一四年度

平成二六（二〇一四）年度は、二件の「研究所プロジェクト」をはじめとして、従来の班別研究など、多数の共同研究計画が展開された。

【研究所プロジェクト】

「近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割」計画におけるシンポジウム発表とプロジェクトの成果集約の打ち合わせ

客員研究員 吉田 達矢

客員研究員 福田 義昭

期間 二〇一四年一月二五日～一月二七日

出張先 東京（東洋大学白山キャンパス）

「近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割」計画における成果公開に向けての最終資料確認

研究員 三沢 伸生

期間 二〇一四年三月四日～三月五日

調査地 宮城県（宮城県立図書館・東北大学大学院国際文化研究科）

「近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割」計画における成果公開に向けての最終資料確認及び打ち合わせ

研究員 三沢 伸生

期間 二〇一四年三月八日～三月九日

出張先 大阪（大阪府立図書館・大阪大学国際学部）

本プロジェクト遂行にあたり、客員研究員のうち研究分担者である福田客員研究員と研究協力者である吉田客員研究員を迎えて、後述のように公開シンポジウム「昭和前期の在日タタール人共同体」を開催し、その準備の打ち合わせと、プロジェクト最終年度に伴う研究成果公開の方法と日程に関して打ち合わせを行った。

またその際において関連する補完史料を探索・現物確認・複写収集する必要が生じて、研究分担者である三沢研究員が、宮城県と大阪府に短期出張を行った。

「アジア境域における跨境的生活様式の研究——東アジア・東南アジアの比較——」計画による中国における現地聞き取り調査

研究員 後藤 武秀

期間 二〇一四年三月一五日～三月一八日

調査地 中国（深圳市・花都市）

今回の訪中では、まず、中国広東省深圳市にある韓国商工会、黒竜江省朝鮮族会を主たる訪問先として、中国南部の商工業都市における朝鮮族の同郷会活動について調査を進めた。改革開放直後に中朝国境付近の朝鮮族が多数深圳市に移住しており、同郷会を結成、単に親睦だけではなく、職業の紹介、工場用地の紹介などの経済活動の支援を行っていることが分かった。次に、花都市の台商協会を訪問し、台湾出身者が新興都市とも言

うべき花都市においては飲食業、サービスの分野で出店しており、台商協会としても従業員の紹介などの支援活動を行っていることを知ることができた。

「アジア地域における跨境的生活様式の研究 ―東アジア・東南アジアの比較―」計画による中国においての現地調査

期 間 二〇一四年三月二三日～三月二六日

研究員 後藤 武秀

調査地 中国（港市・広州市）

今回の訪中では、中国広東省で活動している朝鮮族の同郷会を訪問調査した。前回は深圳市を中心とした調査であったが、今回は広州市を中心として調査した。広州市の朝鮮同郷会では、距離的に近いこともあって深圳市の同郷会と常時交流を持ち、共同で親睦事業を営んでいる。その構成員は、すでに広州市移住後の二世帯が多くなってきており、朝鮮族の文化、習俗に関する共通の理解が薄れつつあるのが問題との指摘を受けた。言語についても、二世帯では家庭内でも普通語を使うようになってきているとのことであった。

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」計画による中国においての現地調査

期 間 二〇一四年二月五日～二月一三日

研究員 後藤 武秀

出張先 中国（深圳市・トンカン市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」計画による中国においての現地調査

期 間 二〇一四年二月二〇日～二月二三日

研究員 後藤 武秀

調査地 中国（港市・広州市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」計画による中国においての現地調査

期 間 二〇一四年三月八日～三月一二日

研究員 後藤 武秀

出張先 中国（広州市・深圳市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」計画による韓国において論文校正・資料調査及びセミナーに関する打ち合わせ

期 間 二〇一四年五月八日～五月一二日

研究員 後藤 武秀

出張先 韓国（ソウル市・全北市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」計画による韓国において論文校正・資料調査及びセミナーに関する打ち合わせ

研究員 深川 裕佳
研究員 李 芝妍

期 間 二〇一四年五月八日～五月二一日
出張先 韓国（ソウル市・大邱市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」
計画による台湾におけるの現地調査

研究員 後藤 武秀

期 間 二〇一四年九月一五日～九月二二日
調査地 台湾（台北市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」
計画による台湾におけるの現地調査

研究員 深川 裕佳

研究員 李 芝妍

期 間 二〇一四年九月一六日～九月一九日

調査地 台湾（台北市）

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」
計画による中国におけるの現地調査

研究員 後藤 武秀

期 間 二〇一四年九月四日～九月一〇日
調査地 中国（深圳市）

* 右記八件の詳細については本号所収の「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係」報告を参照。

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による韓国におけるの資料収集

研究員 松本 誠一

客員研究員 井出 弘毅

期 間 二〇一四年八月六日～八月二二日
調査地 韓国（巨済市）

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による臨地研究セミナーでの報告

研究協力者 本名 純

研究協力者 青山 和佳

期 間 二〇一四年九月二六日～九月二八日

出張先 長崎県（対馬市）

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による臨地研究セミナーでの報告

研究分担者 石井 正子

期 間 二〇一四年九月二七日～九月二九日
出張先 長崎県（対馬市）

調査・研究活動

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による臨地研究セミナーでの報告

研究協力者 伊藤 眞

期 間 二〇一四年九月二七日～九月三〇日

出張先 長崎県（対馬市）

インタビュー

期 間 二〇一四年二月六日～二月一六日

研究分担者 石井 正子

調査地 マレーシア

* 右記七件の詳細については本号所収の「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」報告を参照。

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による「インドネシアのセンサスとGIS」勉強会参加および東南アジア学会関東例会における参加・検討

客員研究員 山口 裕子

客員研究員 森田 良成

研究協力者 大出 亜矢子

期 間 二〇一四年一月二二日～一月二三日

出張先 東京（東洋大学白山キャンパス）

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画による韓国において現地調査

客員研究員 宮下 良子

期 間 二〇一四年二月七日～二月一〇日

調査地 韓国（ソウル市）

「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス―東南アジア・東アジアの地域間比較」計画によるマレーシアにおいて現地調査・

研究会合報告——二〇三年度～二〇四年度

△年次集会▽

第八回年次集会

日時 二〇一四年一月二五日（土）

会場 東洋大学白山キャンパス二号館一六階スカイホール中央

開会の挨拶

アジア文化研究所長 高橋 継男

テーマ発表

「現代ミャンマーにおける政治と宗教のダイナミクス」

問題提起

研究員 石井 隆憲

ミャンマー政府が民政移管され、アメリカがミャンマーに対して大きなアクションを起こして以降、各国はミャンマーを注視するようになった。なかでも世界中の企業が東南アジアの「ラスト・フロンティア」としてのミャンマーに注目し、大きく投資を始めるようになったことは、誰もが知るところである。

しかし、こうした積極的な働きかけに対して、ミャンマー固有の問題が浮上してきたことも事実である。例えば、法の整備が進んでいないこともあって、さまざまな投資事業に制限が加えられていたり、日系企業が付き合うことのできる事業規模の会社の多くが、旧軍事政権と深い関わりを持っていることから、自ずと中小企業と手を組まざるを得ないという状況

を生み出しているなど、実に様々な問題が山積みしており、こうしたことがミャンマー進出へのハードルを高く押し上げているとも言われている。また、仮にこのような問題が解消されたとしても、これまでミャンマーが築き上げてきた伝統的な文化や慣習、あるいはその大本となっている宗教が、日本企業の経営システムとは容易に噛み合わないものであるとの指摘もある。

こうした様々な指摘は、他の場面においても確認することができる。ここではスポーツを例に挙げて、現代ミャンマーがどのような動きを見せているのかを紹介しよう。二〇〇九年にミャンマー国内では、八つの地方クラブからなるミャンマー・ナショナルリーグというミャンマーのプロサッカーリーグが設立され、国内は大いに盛り上がった。その後、二〇一二年には日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）とパートナーシップ協定を締結し、多くはＪリーグが培ってきたノウハウが導入されるようになった。特に人的資産の交流には、目を見張るものがあり、日本からは何人もの選手がミャンマーでプレイするとともに、二〇一一年からミャンマーの女子代表監督を日本人が努め、非常に良い結果を残してきた（二〇一四年の途中で契約を打ち切り、INAC神戸レオネッサの監督に就任している）。こうした流れを見ると、サッカーの場合には、うまく諸外国とのあいだの関係性が保たれたように見える。しかし、一つ一つの小さな出来事の中で、いろいろな文化摩擦が生じている。例を挙げるなら、日本では指導者が選手のプレイを怒鳴りながら注意することは一般的であるが、ミャンマーではあまり馴染みがないことから、日本の選手のように叱咤激励という感覚は少ないようで、指導の方法そのものの見直しが迫られる場合がある。ま

た、ミャンマー・ナショナルリーグの当初の参加クラブは、すべてがビルマ族を中心として結成されたものであり、また、リーグの母体となる地域もビルマ族が中心となる管区に限られていた。そのため、サッカー熱は首都圏に住む若者たちのみの関心事に終始し、民族や地域に大きな格差をもたらすことに繋がっている。

二〇一三年一二月にミャンマーは四四年ぶりに東南アジア競技大会 (South East Asian Games : 通称、SEA Games) のホスト国を務めた。中国は開会式と閉会式のための技術援助と三三〇万USDの提供をしたと伝えられるとともに、ミャンマーの各種目のナショナルチームに対して、非常に多くのコーチが人的派遣された。その結果、ミャンマーの金メダル獲得数は、タイに次いで第2位へと躍進したのである。一方で、こうした活躍に対して、ホスト国である利点を活かし、ミャンマーの伝統スポーツ「チンロン」を競技化してメダルの数を増やしたという批判も出された。このように、スポーツをとおして海外からの支援を受けるという状況を見る限り、中国との関係は密接であることが見て取れる。

さて、これまでいくつかの例を挙げて、現代ミャンマーの一端を垣間見てきたが、実際には現在めまぐるしい速度で変化するミャンマーをどのように捉えたらよいのかについて、今回はその根幹となる宗教と政治について、東京外語大学大学院の土佐桂子教授と外務省国際協力局開発協力総括課の矢間秀行課長補佐の二人の専門家をお招きして解説いただくものである。

「日本の対ミャンマー政策とその動向」

外務省国際協力局開発協力総括課課長補佐 矢間 秀行

「ミャンマーにおける社会変化と宗教に見られる新たな動き」

東京外国語大学大学院地域文化研究科教授 土佐 桂子



矢間秀行氏



土佐桂子氏



報告風景

院生研究員発表

「頼山陽『李德裕論』についての一考察」

院生研究員 竹内 洋介

「日本とベトナムにおける行政指導」 院生研究員 タン・ワン・チュン

研究班等発表

「古代中華帝国の民族官印と鈕型」

客員研究員 谷口 房男

「海外駐在員のメンタルヘルス―研究の喫緊性とファジークラスター分析の射程―」

研究員 加藤 千恵子

研究員 土田 賢省

研究員 後藤 武秀

「近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割」

研究員 三沢 伸生

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」

研究員 後藤 武秀

閉会の挨拶

研究員 松本 誠一

△シンポジウム▽

公開シンポジウム

「昭和前期の在日タタール人共同体」

日時 二〇一四年一月二六日（日）

場所 東洋大学白山キャンパス二号館三階第一会議室

発表

「東京における在日タタール人共同体とその活動」 研究員 三沢 伸生

「神戸における在日タタール人共同体とその活動」

客員研究員 福田 義昭

「名古屋における在日タタール人共同体とその活動」

客員研究員 吉田 達矢

コメント

「近代日本の民族スポーツ形成におけるタタール人・トルコ人の役割」

研究員 石井 隆憲

研究所プロジェクト報告

「日韓間における跨境的生活様式―下関の在日コリアンの生活史から」

客員研究員 井出 弘毅



会場風景 1



会場風景 2

公開国際シンポジウム

「アブデュルレシト・イブラヒムとその時代」

日時 二〇一四年五月二四日(土)・二五日(日)

場所 早稲田大学早稲田キャンパス小野記念講堂(五月二四日)

場所 ユーヌス・エムレ・セントー東京ジャーミニー・ホール(五月二五日)

主催 早稲田大学重点領域研究機構アジア・ムスリム研究所

後援 アンカラ大学・アタテュルク文化・言語・歴史高等研究機構トル

コ歴史協会・Yunus Emre Enstitüsü / Tokyo Kültür Merkezi

駐日トルコ共和国大使館・早稲田大学イスラーム地域研究機構・

NHU プログラムイスラーム地域研究東京大学拠点・東京外国

語大学国際日本研究センター・東洋大学アジア文化研究所

五月二四日

開会挨拶

駐日トルコ共和国大使

H.E. Ahmet Bülent Meriç

アンカラ大学学長 Erkan ibişi

早稲田大学アジア・ムスリム研究所所長 小島 宏

趣旨説明

東京外国語大学 小松 久男

第一セッション

「アブデュルレシト・イブラヒムとその時代」

司 会

東京外国語大学 小松 久男

Abdürreşit İbrahim'den Geride Kalanlar

Abdürreşit İbrahim'in Torunu-Izmir NESLİHAN ARUL AKSOY

Abdürreşid İbrahim's Journey to China : Muslim communities in the late Qing period as seen by a Russian-Tatar intellectual

東京大学 山崎 典子

Abdürreşit İbrahim'in Seyahatnamesine Göre Kore

Ankara Üniversitesi M.ERTAN GÖKMEK

Abdürreşit İbrahim Hakkındaki Polis Kayıtları Üzerine

Ankara Üniversitesi A. MERTHAN DÜNDAR

第二セッション

ロシア・ムスリムの民族運動・トルコと日本の中央ユーラシア政策

司 会

笹川平和財団 松長 昭

Rusya Müslümanları Yenileşme Çizgisinde (Cedidizmde) İsmail

Gaspıralı ve Abdürreşid İbrahim Üzerine Karşılaştırılmalı Bir

Zihniyet ve Usul İncelemesi

Ankara Üniversitesi ABDULLAH GÜNDOĞDU

İsmail Gaspıralı'nın Ceditçilik Programı Çerçevesinde Bir Ceditçi

Olarak Abdürreşit İbrahim

Gazi Üniversitesi ALPER ALP

Is Turkish Muslim Uthman a `da `ı or `intelligence agent`? :

`Collaboration` between Japanese Army and Muslim minorities in

China

首都大学東京 澤井 充生

Türkistan'da Hayali Japon Casusları (1920-1937)

Marmara Üniversitesi İSMAIL TÜRKÖĞLÜ

第三セッション

タタール移民と日本

司 会

早稲田大学 店田 廣文

Tatar Emigrants' Next Generation in Japan: Children of Different Cultures

Kazan Federal University, Russia LARISA USMANOVA

Tatar Migrants and After: Migration of the Second Generation born in the Far East

早稲田大学・ボアジチ大学 沼田 彩香子

Kobe Mosque and the Local Muslim Community: From Their Beginnings to the Aftermath of WW II

大阪大学 福田 義昭

Turancılık Üçgeninde Bir Muhacir Alimcan Tagan: Japonya, Macaristan ve Türkiye

慶應義塾大学 小野 亮介

五月二五日

第四セッション

第4部会：「アブデュルレシト・イブラヒムとその著作」

司 会

東洋大学 三沢 伸生

Âlem-i İslâm'ın Üslup ve Anlatımı Üzerine

Yunus Emre Enstitüsü MUSTAFA BALCI

Abdürreşit İbrahim'e Göre Müslümanların Geri Kalma Sebepleri

Ankara Üniversitesi İBRAHİM MARAŞ

Abdurreşid İbrahim'in 'MİR'AT' almanahı (mecmuası)

Kazan Federal University, Russia ASIYA RAKHIMOVA

Abdurreşit İbrahim'in Orenburg Ruhani İdaresindeki Görevi ve Faaliyetleri

Kazan Yunus Emre Merkezi İHSAN DEMİRBAŞ

閉会挨拶

東京ユース・エムレ・トルコ文化センター長 TELAT AYDIN

アタテュルク文化・言語・歴史高等研究機構長 Prof. Dr. DERYA ÖRS

△研究会▽

第二〇回海外赴任者のためのメンタルヘルス研究会

日時 二〇一四年五月三一日（土）

会場 東洋大学川越キャンパス応化情報実験棟二階

「中国駐在員のメンタルヘルス研究の経過と課題」

研究員 後藤 武秀

第二一回海外赴任者のためのメンタルヘルス研究会

日時 二〇一四年七月一九日（土）

会場 東洋大学川越キャンパス応化情報実験棟二階

「海外赴任者のメンタルヘルスの現状」

国際EAP研究センター副センター長 澁谷 英雄

第四一回こりあんコミュニティ研究会定例研究会

「在日コリアンの記憶をどう伝えるか」

日時 二〇一四年一月一日（土）

会場 東洋大学白山キャンパス六号館四階六四〇二教室

主催 こりあんコミュニティ研究会

共催 東洋大学アジア文化研究所

後援 大阪市立大学都市研究プラザ

「文化センターアリラン 活動報告」

文化センター・アリラン 中澤 俊子

「在日韓人歴史資料館の設立と今後の活動について」

在日韓人歴史資料館 李 美愛

「関西における在日朝鮮人関係ライブラリー―1980年代を中心に―」

同志社大学 藤井 幸之助

コメント 慶應義塾大学 柏崎 千佳子

千葉商科大学 高野 昭雄

△研究大会▽

韓国・朝鮮文化研究会第一五回研究大会

日時 二〇一四年一〇月二五日（土）

会場 東洋大学白山キャンパス六号館二階六二〇二教室

主催 韓国・朝鮮文化研究会

後援 東洋大学アジア文化研究所

一般研究発表

「現代韓国社会における医療のポストコロナル状況―がん患者の療養を事例に―」 澤野 美智子

「中国朝鮮族社会における婚姻儀礼の変化―移動がもたらす変化と承継の様相―」 小坂 みゆき

「二七世紀中葉朝鮮王朝による対清貿易の開始について」 辻 大和

シンポジウム

「ネーションの跨境―韓国・朝鮮の挑戦、生活の適応」

研究員 松本 誠一

「国境を越えた人々と法の『近現代』―法整備に根差す韓国政府の人を

媒介した国家戦略」 客員研究員 吉川 美華

「関釜・釜関フェリーで日韓間を跨境する人々の生活実態―ポッターチャ

ンサとある在日コリアン男性の事例から」 客員研究員 井出 弘毅

「中国朝鮮族の移動と跨境―家族分散を支えるコミュニティ形成の諸相」

権 香淑

コメント

李 仁子

山本 須美子

討論

△ワークショップ▽

「東アジアにおける会社を巡る慣習と法制度」

日時 二〇一四年八月三〇日(土)
会場 東洋大学白山キャンパス五号館三階五三〇一教室

「開催の趣旨」

研究員 後藤 武秀

「会社法における定款自治」

福州大学法学院副教授 李 秀文

「二〇一四年会社法改正からみた企業統治の特徴」 研究員 井上 貴也

「中国における取締役会に関する法制度と実際の慣習」

アモイ大学法学院副教授 劉 永光

「中国と日本の会社法の交錯」

清華大学法学院副教授 朱 大明

「共同討論」

司 会

研究員 後藤 武秀

「閉会のあいさつ」

研究員 後藤 武秀

△勉強会▽

「インドネシア時空間データ勉強会」

「インドネシアのセンサスに関する共有データの可能性」

客員研究員 加藤 剛

「一九三〇年と二〇〇〇年センサスの比較―東ヌサトゥンガラ地域の事例」

客員研究員 森田 良成

「一九三〇年と二〇〇〇年センサスの比較―南東スラウェシ地域の事例」

客員研究員 山口 裕子

ディスカッション

日時 二〇一四年二月三日(土)
会場 東洋大学白山キャンパス八号館三階八三〇一教室

趣旨説明

研究員 長津 一史

「オランダ領東インドの人口センサス Volkstelling (1930) についての
説明とその共有データ化」
研究員 長津 一史

研究所報 二〇三三年度～二〇一四年度

アジア文化研究所日誌（平成二六年一月～平成二六年二月）

平成二五年度

一月二五日 第六回 運営委員会

報告事項 (1)平成二五年度第五回學術推進委員会の報告 (2)各作業部会からの報告①各研究所プロジェクト活動状況について②『研究年報二〇一三年』第四八号編集進捗状況について③その他 (3)その他
審議事項 (1)平成二五年度第五回運営委員会議事録（案）について (2)①第八回年次集会上について②第九回年次集会上の日程について (3)今年度後期の予算執行について (4)海外・国内出張について (5)アジア文化研究所研究員総会について (6)平成二六年度研究班の体制について (7)平成二六年度客員研究員登録について (8)平成二六年度アジア文化研究所運営委員・体制について (9)研究年報「投稿規程」部分改定について (10)その他①自己点検・評価（研究所）について②その他

一月二五日 第八回 年次集会上

開会の挨拶
アジア文化研究所所長 高橋 継男
テーマ発表
『現代ミャンマーにおける政治と宗教のダイナミクス』
問題提起 研究員 石井 隆憲
「日本の対ミャンマー政策とその動向」

外務省国際協力局開発協力総括課課長補佐

矢間 秀行

「ミャンマーにおける社会変化と宗教に見られる新たな動き」

東京外国語大学大学院地域文化研究科教授

土佐 桂子

院生研究員発表

「頼山陽『李德裕論』についての一考察」

院生研究員 竹内 洋介

「日本とベトナムにおける行政指導」

院生研究員 タン・ワン・チュン

研究班等発表

「古代中華帝国の民族官印と鈕型」

客員研究員 谷口 房男

「海外駐在員のメンタルヘルス・研究の喫緊性とファジークラスター分析の射程」

研究員 加藤 千恵子

研究員 土田 賢省

研究員 後藤 武秀

研究所プロジェクト報告

「日韓間における跨境的な生活様式―下関の在日コリアンの生活史から」 客員研究員 井出 弘毅

「近代日本の民族スポーツ形成におけるアジア諸民族の役割」 研究員 三沢 伸生

「東アジア・東南アジアにおける西洋近代法と慣習法の関係に関する研究」 研究員 後藤 武秀

閉会の挨拶 研究員 松本 誠一

一月二六日 公開シンポジウム

『昭和前期の在日タタール人共同体』

「東京における在日タタール人共同体とその活動」

研究員 三沢 伸生

「神戸における在日タタール人共同体とその活動」
客員研究員 福田 義昭

「名古屋における在日タタール人共同体とその活動」
客員研究員 吉田 達矢
コメント 研究員 石井 隆憲

三月一四日 第七回 運営委員会

報告事項 (1)平成二五年度第六回學術研究推進委員会の報告 (2)研究所活動についてのヒアリング (3)平成二五年度研究所プロジェクト活動報告 (4)平成二五年度研究所活動報告 (5)各作業部会からの報告①『研究年報二〇一三年』第四八号出版について②二〇一三年度「研究活動」報告および二〇一四年度「研究活動」計画書 (6)平成二六年度客員研究員登録、研究員・院生研究員登録 (7)平成二五年度予算執行について (8)その他

三月一四日 研究員総会

審議事項 (1)平成二五年度第六回アジア文化研究所運営委員会議事録(案)について (2)平成二六年度アジア文化研究所運営委員構成について (3)研究班について (4)平成二五年度今後の予算執行予定について (5)国内出張について (6)平成二五年度研究員総会について (7)その他
議題 (1)平成二五年度活動報告について (2)平成二五年度予算執行状況について (3)平成二六年度事業計画について (4)平成二六年度予算(案)について (5)平成二六年度運営組織について (6)その他

平成二六年度

四月一日 研究員委嘱

客員研究員委嘱(平成二八年三月三日まで)

四月一四日 臨時会議

四月二六日 第一回 運営委員会

議題 (1)大型研究費申請について (2)ワーキング・チーム編成について (3)本会議の位置づけ

報告事項 (1)平成二五年度アジア文化研究所研究員総会について (2)臨時会議について (3)その他①平成二五年度予算執行結果について②平成二六年度予算執行計画について③その他
審議事項 (1)平成二五年度第七回運営委員会議事録(案)について (2)平成二六年度運営委員・任務分担について (3)平成二六年度アジア文化研究所事務担当者の職務体制及び研究所の鍵の管理について (4)平成二六年度予算執行計画について (5)平成二六年度活動計画①研究活動について(例会、年次集会の日程などについて)②ホームページ更新について(研究員・年報・プロジェクト)③年報の刊行について④資料の収集について⑤その他 (6)平成二五年度研究所プロジェクト活動報告書について (7)平成二五年度研究所活動報告書について (8)平成二六年度研究員・院生研究員の新規登録について (9)出張について (10)その他①平成二六年度運営委員会の開催日程について②研究所の整理について③その他

五月二四日 第二回 運営委員会

報告事項 (1)平成二六年度第一回学術研究推進委員会の報告 (2)理事長による研究所ヒアリングの報告 (3)平成二五年度研究所活動報告書の提出について (4)『研究年報二〇一四年』原稿応募状況について (5)各作業部会からの報告 (6)その他

審議事項 (1)平成二六年度第一回運営委員会議事録(案)について (2)学術情報リポジトリについて (3)各作業部会の活動計画について (4)平成二六年度図書購入について (5)研究所予算執行状況について (6)自己点検・評価について (7)中期計画について (8)その他

五月二四日・二五日 公開国際シンポジウム

主催 早稲田大学重点領域研究機構アジア・ムスリム研究所
後援 東洋大学アジア文化研究所

開会挨拶

駐日トルコ共和国大使 H.E. Ahmet Bülent Meriç アンカラ大学学長 Erkan İbîs
早稲田大学アジア・ムスリム研究所所長

趣旨説明 東京外国語大学 小松 久男
第1セッション

『アフデュルレシト・イブラヒムとその時代』
司会 東京外国語大学 小松 久男
"Abdürreşit İbrahim'den Geride Kalanlar"
Abdürreşit İbrahim'in Torunu-İzmir

NESLİHAN ARUL AKSOY

"Abdürreşid İbrahim's Journey to China: Muslim communities in the late Qing period as seen by a Russian-Tatar"
東京大学 山崎 典子
"Abdürreşit İbrahim'in Seyahatnamesine Göre Kore"
Ankara Üniversitesi M.ERTAN GÖKMEN
"Abdürreşit İbrahim Hakkındaki Polis Kayıtları Üzerine"
Ankara Üniversitesi

A. MERTHAN DÜNDAR

第2セッション

『ロシア・ムスリムの民族運動・トルコ日本
の中央ユーラシア政策』
司会 笹川平和財団 松長 昭

"Rusya Müslümanları Yenileşme Çizgisinde (Cedidizmde) İsmail Gaspralı ve Abdürreşid İbrahim Üzerine Karşılaşılmalı Bir Zihniyet ve Usûl İncelemesi"
Ankara Üniversitesi

ABDULLAH GÜNDÖĞDÜ

"İsmail Gaspralı'nın Ceditçilik Programı Çerçevesinde Bir Ceditçi Olarak Abdürreşit İbrahim" Gazi Üniversitesi ALPER ALP
"Is Turkish Muslim 'Uthman a 'da 'is or 'intelligence agents'?: 'Collaboration' between Japanese Army and Muslim minorities in China"

首都大学東京 澤井 充生
"Türkistan'da Hayali Japon Casusları

(1920-1937) "

Marmara Üniversitesi İSMAIL TÜRKÖĞLÜ

第3セッション

『タートル移民と日本』

司会 早稲田大学 店田 廣文

"Tatar Emigrants' Next Generation in Japan: Children of Different Cultures"

Kazan Federal University

Russia LARISA USMANOVA

"Tatar Migrants and After: Migration of the Second Generation born in the Far East"

早稲田大学／ボイニチ大学 沼田 彩香

"Kobe Mosque and the Local Muslim Community: From Their Beginnings to the Aftermath of WW II"

大阪大学 福田 義昭

"Turancılık Üçgeninde Bir Muhacir Alimcan Tagan: Japonya, Macaristan ve Türkiye"

慶應義塾大学 小野 亮介

第4セッション

『アフデュルレシット・イブラヒムとその著作』

司会 東洋大学 三沢 伸生

"Âlem-i Islâm'ın Üslup ve Anlatımı Üzerine"

Yunus Emre Enstitüsü MUSTAFA BALCI

"Abdürreşit İbrahim'e Göre Müslümanların Geri Kalma Sebepleri"

Ankara Üniversitesi İBRAHİM MARAŞ

五月三十一日 研究会

六月二十八日 第三回 運営委員会

"Abdürreşid İbrahim'in 'Mîr 'at' almana (mecmuası)"

Kazan Federal University, Russia

ASIYA RAKHIMOVA

"Abdürreşit İbrahim'in Orenbur Ruhani idaresindeki Görevi ve Faaliyetleri"

Kazan Yunus Emre Merkezi

İHSAN DEMİRBAŞ

閉会挨拶

東京ユース・エムレ・トルコ文化センター長

TELAT AYDIN

アタテュルク文化・言語・歴史高等研究機構長

Prof. Dr. DERYA ÖRS

『海外赴任者のためのメンタルヘルス研究会』

「中国駐在員のメンタルヘルス研究の経過と課題」

研究者 後藤 武秀

題」

報告事項

(1)平成二六年度第二回学術研究推進

委員会の報告 (2)各作業部会からの報告①『ア

ジア文化研究所研究年報・二〇一四年・』原稿

応募状況について②アジア文化研究所ホーム

ページについて③その他 (3)国際基督教大学ア

ジア文化研究所訪問の報告 (4)その他

審議事項 (1)平成二六年度第二回運営委員会議

事録(案)について (2)『アジア文化研究所研

究年報・二〇一四年・』原稿応募について (3)

第九回年次集会の準備状況について (4)「研究

班」の組織化について (5)平成二六年度客員研

究員新規申請について (6)出張申請について
(7)アジア文化研究所一般運営費六月二七日現在
執行一覽 (8)研究所自己評価について (9)中期
計画について (10)研究所書架整理について (11)
その他

七月一九日 研究会

『海外赴任者のためのメンタルヘルス研究会』
『海外赴任者のメンタルヘルスの現状』

国際EAP研究センター副センター長

澁谷 英雄

八月三〇日 ワークショップ

『東アジアにおける会社を巡る慣習と法制度』

開催の趣旨 研究員 後藤 武秀

『会社法における定款自治』

福州大学法学院副教授 李 秀文

『二〇一四年会社法改正からみた企業統治の特
徴』 研究員 井上 貴也

『中国における取締役会に関する法制度と実際
の慣習』 アモイ大学法学院副教授 劉 永光

『中国と日本の会社法の交錯』

清華大学法学院副教授 朱 大明

『共同討論』

司会 研究員 後藤 武秀

閉会の挨拶 研究員 後藤 武秀

一〇月一日 研究員委嘱

客員研究員委嘱（平成二八年九月三〇日まで）

一〇月二五日 第四回 運営委員会

報告事項 (1)平成二六年度第三・四回学術研究

一〇月二五日 研究大会

推進委員会の報告 (2)第三回運営委員会以降の
研究所関係活動について (3)平成二七年度予算
要求書について (4)平成二六年一〇月研究員・
客員研究員・院生研究員登録申請について (5)
「東洋大学研究成果・シーズ展2014」への
研究所紹介パネルの出版・附置研究所による研
究成果報告について (6)各作業部会から (7)客
員研究員の異動について (8)その他
審議事項 (1)平成二六年度第三回運営委員会議
事録（案）について (2)平成二七年度「井上円
了記念研究助成」（研究所プロジェクト）の募
集について (3)『研究年報二〇一四年』第四九
号の論文応募について (4)『研究年報二〇一四
年』第四九号の刊行作業予定について (5)『研
究年報二〇一五年』第五〇号の企画について
(6)平成二六年度予算執行状況と今後の執行計画
(7)継続購入図書について (8)研究所の整理につ
いて (9)出張申請について (10)年次集会につ
いて (11)その他

「韓国・朝鮮文化研究会第一五回研究大会」

主催 韓国・朝鮮文化研究会

後援 東洋大学アジア文化研究所

一般研究発表

「現代韓国社会における医療のポストコロナ
ル状況―がん患者の療法を事例に」

澤野 美智子

「中国朝鮮族社会における婚姻儀礼の変化―移
動がもたらす変化と承継の様相」小坂 みゆき
「一七世紀中葉朝鮮王朝による対清貿易の開始

について」 辻 大和

シンポジウム

趣旨説明

「ネーションと跨境―韓国・朝鮮の挑戦、生活の適応」 研究員 松本 誠一

「国境を越えた人々と法の『近代』―法整備に根差す韓国政府の人を媒介した国家戦略」

客員研究員 吉川 美華

「関釜・釜関フェリーで日韓間を跨境する人々の生活実態―ポッターチャンサとある在日コリアン男性の事例から」 客員研究員 井出 弘毅
「中国朝鮮族の移動と跨境―家族分散を支えるコミュニティ形成の諸相」

コメント

山本 須美子

討論

二月二五日 定例研究会

「在日コリアンの記憶をどう伝えるか」

主催 こりあんコミュニティ研究会

共催 東洋大学アジア文化研究所

後援 大阪市立大学都市研究プラザ

「文化センターアリラン活動報告」

文化センター・アリラン 中澤 俊子

「在日韓人歴史資料館の設立とその後の活動について」 在日韓人歴史資料館 李 美愛

「関西における在日朝鮮人関係ライブラリー―1980年代を中心に―」

同志社大学 藤井 幸之助

二月二二日 第五回運営委員会

報告事項 (1) シーズ展・附置研究所活動状況報告会について (2) 各作業部会からの報告①各研究所プロジェクト活動状況について②各研究班活動状況について③『研究年報二〇一四年』第四九号について④自己点検・評価の提出について⑤その他 (3) その他

審議事項 (1) 平成二六年度第四回運営委員会議事録(案)について (2) 第九回年次集会について (3) 研究年報の「投稿規程」について (4) 平成二六年度予算執行状況と今後の執行計画 (5) 平成二七年一月～三月のスケジュールについて (二月・二月の運営委員会開催について) ―

一月二四日第六回運営委員会・一月二四日年次集会・二月臨時運営委員会・三月第七回運営委員会・研究員総会など― (6) 次年度研究員・客員研究員・院生研究員募集について (7) その他

二月二二日 勉強会

「インドネシア時空間データ勉強会」

趣旨説明 研究員 長津 一史

「オランダ領東インドの人口センサス Volksstelling (1930) についての説明とその共有データ化」 研究員 長津 一史

「インドネシアのセンサスに関する共有データの可能性」 客員研究員 加藤 剛

「一九三〇年と二〇〇〇年センサスの比較―東ヌサトゥンガラ地域の事例―」

客員研究員 森田 良成
「一九三〇年と二〇〇〇年センサスの比較―南

東スラウエシ地域の事例」

客員研究員 山口 裕子
デイスカッション

平成二六年度アジア文化研究所研究員

有澤晶子 李芝妍 ○井上貴也 植野弘子 王亜新 王学群 王雪萍 大迫正文 郝仁平 桂直美 加藤千恵子 金田英子 川崎ミチコ ○木内明 喜岡恵子 木村一 楠元純一郎 ○後藤武秀 小林秀年 小林正夫 小西康夫 ○斎藤里美 坂井多穂子 佐々木啓介 ジェイムズ・ダニエル・シヨート篠崎正彦 志摩憲寿 小路口聡 ○統三義 鈴木哲郎 鈴木佑記 ○高橋継男 滝澤美帆 谷釜尋徳 ○千葉正史 土田賢省 テイモシ・ジェームス・ニューフィールズ ○長津一史 名雪健二 ○子島進 野島直人 野間信幸 平野和弘 深川裕佳 福井吉孝 ◎松本誠一 ○三沢伸生 箕曲在弘 宮原均 山口しのぶ 山本須美子 米澤正雄 梁春香 劉永鵠 ロバート・ヒューズ

(◎所長 ○運営委員)

平成二六年度アジア文化研究所客員研究員

赤堀雅幸 阿部照男 荒邦啓介 安藤潤一郎 飯塚勝重 石井隆憲 石川重雄 石丸由美 井出弘毅 井上星児 今松泰 大川正彦 大城美樹雄 太田辰幸 大畑裕嗣 大室智人 奥山直司 加藤剛 川上崇 菊池良輝 金東光 小澤康則 齋藤康輝 佐藤三千夫 真田安 久志本裕子 シナン・レヴエン ト 下山伴子 朱大明 徐瑞静 新江利彦 末成道男 杉山幸一 鈴木陽子 高澤弘明 高津茂 高橋圭 高橋彩 竹内洋介 田中路子 ダニシマズ・イ デイリス 谷口房男 鄧光姫 東長靖 都甲裕文 中田有紀 中村理恵 成瀬・トーマス・誠 仁子寿晴 西野節男 バイラ・ビレンドラ 服部美奈 正田聡 福田義昭 本多守 馬雪峰 南亮進 嶺崎寛子 宮下良子 盛岡一夫 森田良成 山形勝義 山口裕子 横川伸 吉川美華 吉田達矢 吉本康子 米田公丸 廖国一 渡邊曉子

平成二六年度アジア文化研究所院生研究員

平成二六年度 在籍者なし

平成二七年三月三十一日退任予定研究員

福井吉孝

訃報

高橋統一(旧アジア・アフリカ文化研究所所長) 平成二六年二月一八日逝去
石岡 浩(客員研究員) 平成二六年一〇月三日逝去
針生清人(旧アジア・アフリカ文化研究所所長) 平成二六年二月一〇日逝去

二〇一四年寄贈交換文献目録（二〇一三年二月～二〇一四年一月）

- アカデミア 社会科学編 第六号・第七号 南山大学
アカデミア 人文・自然科学編 第七号・第八号 南山大学
アカデミア 文学・語学編 第九五号・第九六号 南山大学
アジアからの世界史像の構築 成蹊大学アジア太平洋研究センター
アジア研究所報 第一五三号～第一五六号 亜細亜大学アジア研究所
アジア情報室通報 第一一巻四号～第一二巻第三号 国立国会図書館
亜細亜大学学術文化紀要 第二四号～第二五号 亜細亜大学総合学術文化学会
アジア文化研究 四〇 国際基督教大学アジア文化研究所
アンコール遺跡を科学する 上智大学アジア人材養成研究センター
追手門学院大学国際教養学部紀要 第七号 追手門学院大学国際教養学部
岡山市立オリエント美術館研究紀要 第二八号 岡山市立オリエント美術館
オスマン朝思想文化研究 三沢伸生
海外事情 第六一巻一二号～第六二巻一一号 拓殖大学海外事情研究所
海外事情研究 第四一巻第二号 熊本学園大学付属海外事情研究所
海港都市研究 第九号 神戸大学大学院人文科学研究科海港都市研究センター
会報 No.74 公益財団法人アメリカ研究振興会
買い物かご 公益財団法人大同生命国際文化基金
鏡のなかの日本と韓国 国際基督教大学アジア文化研究所
学習院女子大学紀要 第一六号 学習院女子大学
神奈川大学アジア・レビュー 神奈川大学アジア研究センター
韓国朝鮮文化研究 第一三三号
- 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室
関学西洋史論集 第三七集 関西学院大学関学西洋史研究会
関西学院史学 第四一号 関西学院大学史学会
関西大学東西学術研究所紀要 第四七号 関西大学東西学術研究所
カントンからヘルダーリンへ 成蹊大学アジア太平洋研究センター
カンボジアの文化復興(28) 上智大学アジア人材養成研究センター
紀要 史学 第五九号 中央大学文学部
共生の文化研究 No.8 愛知県立大学多分化共生研究所

研究所所報

ギララン州の聖所Ⅰ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
「境界領域」のフィールドワーク「惑星社会の諸問題」に応答するために

中央大学社会科学研究所

グローバル化と現代世界 中央大学出版部

群馬県前橋市江木町の地理と民族 二〇一三年度 地理学実習調査報告書三一

立教大学文学部地理・人類研究会

経営論集 第二七号 大東文化大学経営学会

経営論集 第八二号～第八三号 東洋大学経営学部

慶応義塾大学言語文化研究所紀要 第四五号 慶応義塾大学言語文化研究所

経済論集 第一〇〇号・第一〇一号 大東文化大学経済学部

経済論集 第三九巻第一号～第三九巻第二号 東洋大学経済研究会

計算力学研究センター年報 2012年度・2013年度

東洋大学計算力学研究センター

月刊みんぱく 第三七巻第二号～第三八巻一一号 国立民族学博物館

言語文化 第三一号 明治学院大学言語文化研究所

現代社会研究 第一一号 東洋大学現代社会総合研究所

高野山大学密教文化研究所紀要 第二七号 高野山大学密教文化研究所

語学研究 No.130 拓殖大学言語文化研究所

國學院大學研究開発推進機構 機構ハース Vol.7 No.2・Vol.8 No.1

國學院大學研究開発推進機構 第六号 國學院大學研究開発推進機構

國學院大學研究開発推進機構 第六号 國學院大學研究開発推進機構

國際井上円了研究 第一号 國際井上円了学会

國際井上円了研究 第三四巻一号・第三四巻第二号・第三五巻一号 國際井上円了学会

國際関係研究 第三四巻一号・第三四巻第二号・第三五巻一号 日本大学国際関係学部国際関係研究所

國際関係学部研究年報 第三五集 日本大学国際関係学部

國際教育研究所紀要 第二四号 國際教育研究所

國際教育研究フォーラム 第六〇号～第六三三三 國際教育研究所

國際的な動物園ネットワークを用いた野生動物感染症の早期警報システム 國際教育研究所

日本大学生物資源科学部国際地域研究所

日本大学生物資源科学部国際地域研究所

日本大学生物資源科学部国際地域研究所

研究所所報

国文学 第九八号

国立民族学博物館研究報告 第三八卷第一号、第三八卷四号、第三九卷一号

国立民族学博物館 国立民族学博物館

史艸 第五四号

史叢 第八九号・第九〇号

次世代人文社会研究 第一〇號

儒教文化研究 Vol. 21

上智アジア学 第三一号

常民文化 第三七号

人文学報 No.483

社会学部論集 第57号、第58号

震災がれきとアスベストについて

信頼感の国際比較研究

世界史の中のイスラーム

占領者のまなざし

『東草集』訳註研究 第二卷

総合政策論叢 第二七号・第二八号

大学院論集 第二三三号

第一四回アジア太平洋フォーラム淡路会議

大正大学総合佛教研究所年報 第三六号

大東文化研究 第八四号、第八七号

拓殖大学語学研究 No.129

地域研究 Vol.14/No.1 ~ Vol.14/No.2

中央研究院歴史語言研究所集刊 第八四本第四分・第八五本第二分・第八五本第三分

中央大学社会科学研究所年報 第一八号

中国自動車産業研究報告書

中国自動車産業研究報告書

中国哲学論集 第三九号

中東研究 No.519・No.521

静岡県立大学グローバル地域センター中国自動車産業研究会

九州大学中国哲学研究会

財団法人中東調査会

関西大学国文学会

国立民族学博物館

国立民族学博物館

日本女子大学史学会

日本大学史学会

東西大学校韓日次世代學術FORUM

(韓国) 成均館大學校儒教文化研究

上智大学アジア文化研究所

成城大学常民文化研究会

首都大学東京人文化学研究所

佛教大学社会学部

明治大学社会科学研究所

中央大学出版部

日韓文化交流基金

国際基督教大学アジア文化研究所

川崎大師教学研究所東草集研究会

島根県立大学総合政策学会

日本大学大学院国際関係研究科

アジア太平洋フォーラム・淡路会議

大正大学総合仏教研究所

(韓国) 成均館大學校大東文化研究所

拓殖大学言語文化研究所

京都大学地域研究統合情報センター

中央研究院歴史語言研究所

中央大学社会科学研究所

中国自動車産業研究会

九州大学中国哲学研究会

財団法人中東調査会

中東の思想と社会を読み解く

東京女子大学紀要 論集 第六四卷第二号・第六五卷第一号

唐代を中心とする中国裁判制度の基礎的研究

東南アジア研究 Vol.51/No.2・Vol.52/No.1

東南アジア研究年報 第五五集

東洋史苑 第八一号・第八二号

東洋大学校友会報 第二五八号、第二六一号

東洋哲学研究所紀要 第二九号

東洋大学人間科学総合研究所紀要 第一六号

東洋文化研究 第一六号

東洋法學 第五七卷第二号・第三号 第五八卷一号

徳島文理大学研究紀要 第八七号・第八八号

敦煌遺書

名古屋大学法政国際教育協力研究センターニューズレター No.33

名古屋大学法政国際教育協力研究センター

立教大学アジア地域研究所

南山考古文化人類学研究会

南山大学アジア・太平洋研究センター報 第九号

南山大学人類学博物館紀要 第三二号

南方文化 第三八輯・第四〇輯

難民・強制移動研究のフロンティア

新島学園短期大学紀要 第三三号・第三四号三〇年記念号

新島学園短期大学

日韓文化交流基金三〇年史

日韓文化交流基金NEWS No.68 ~ No.71

日本研究 第五七號、第六〇號

日本表象の地政学

東アジア文化交渉研究 第七号

広島大学現代インド研究 空間と社会 Vol.4

広島大学大学院文学研究科論集 第七三卷

佛教大学総合研究所紀要 第二二号

佛教大学総合研究所

- 佛敎大学総合研究所報 No.35
 佛敎大学大学院紀要 社会学研究科篇 第四二号
 佛敎大学大学院紀要 社会福祉学研究科篇 第四二号
 佛敎大学大学院紀要 教育学研究科篇 第四二号
 佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇 第四二号
 文化 第七七巻第一号～四号
 文学論藻 第八八号
 分散システム:P2Pモデル
 伯耆の日野郡と奥日野『鵜池畜鯉碑考』補正—
 法政大学文学部紀要 No.67・No.68
 北東アジア研究 第二五号
 未来 No.568～No.573
 民族学研究資料彙編 第二三三号
 民博通信 No.143～No.146
 明治大学社会科学研究所紀要 第五一卷第一号～二号・第五二巻第一号～二号
 明治大学人文科学研究紀要第七二冊～八〇冊
 もうひとつの夢
 横浜市立大学論叢 人文科学系列 第六五巻第一号～三三号
 横浜市立大学論叢 社会科学系列 第六三巻第一・二・三合併号・第六四巻第三号・第六五巻第一・二・三合併号
 ラオス現代文学選集
 季刊中国資本市場研究 通巻第二八号～三二一号
 立命館国際研究 第二六巻二号～第二六巻四号・第二七巻一号
 龍谷大学佛敎文化研究所紀要 第五二集
 龍谷大学佛敎文化研究所報 第三七号
 「礼楽」文化
 歴史研究 第五一号
 Achievements in the academic years:2011-2013

研究所所報

- 東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター
 AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Vol.34No.2～Vol.34No.4・Vol.35No.1～Vol.35No.2
 AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Supplementary Issue Vol.47・Vol.50
 Asian Cultural Studies 39
 Asian Cultural Studies Special Issue 16
 CALE NEWS 号外
 CAS News Letter No.1
 CSEAS 2013
 EAI bulletin Vol.16No.1～No.2
 The Educational Principles of Emryo Inoue
 The Gakushuin Journal of International Studies Vol.1
 Global Communication Studies 第一六号
 Japan Center NEWSLETTER 第二六号・第二七号
 JCAS Collaboration Series 8
 Journal of Cultural Interaction in East Asia Vol.5 東アジア文化交渉学会
 MINPAKU Anthropology Newsletter No.37～No.38 国立民族学博物館
 NEAR News 第四四号・第四五号 島根県立大学北東アジア地域研究センター
 NEWSLETTER No.68～No.69 京都大学東南アジア研究所
 Research Vol.18 No.4・Vol.19 No.1～No.3 福岡大学研究推進部
 Ritsumeikan Annual Review of International studies Vol.12
 RUGAS 立教大学地理人類学研究 No.30 立教大学文学部地理・人類研究会
 Senri Ethnological Studies 85～89 国立民族学博物館
 Southeast Asian Studies Vol.2No.1 京都大学東南アジア研究所

TOYO UNIVERSITY NEWS No.239・No.240 東洋大学総務部広報

UTCMS ニューズレター Vol.3～Vol.4

東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構中東地域研究センター

Southeast Asian Studies Vol.2No.3・Vol.3No.1～Vol.3No.2

京都大学東南アジア研究所

ZAIRAI CHI 創刊号 京都大学アフリカ地域研究資料センター

二〇一三年度～二〇一四年度購入図書目録

(二〇一三年二月～二〇一四年二月)

満州事情 全九巻(外務省通商局編)／韓国(国土海洋部編)／中・近世東アジア地域の海陸境界紛争(ソン・スン Chol)／中・近世東アジア地域の海陸境界認識(ソン・スン Chol)／ミャンマー経済の新しい光(尾高煌之助・三重野文晴)／海外同胞の源流・韓人そして朝鮮族の民族運動(윤병석)／海外史料叢書25、26光復以後在中韓人の帰還関連資料Ⅰ、Ⅱ全一卷(国史編纂委員会)／海外史料叢書19 中国東北地域韓人関連資料Ⅰ(国史編纂委員会)／渤海流民史研究(이효경)／韓国近代史資料集成1、3 要視察韓国人挙動1、3 全3巻(国史編纂委員会)／韓国近代史資料集成4 韓仏関係資料(国史編纂委員会)／韓国近代史資料集成12、14 フランス外務部文書2、4(朝鮮Ⅰ～Ⅲ)全3巻(国史編纂委員会)／在外同胞史叢書 全16冊(国史編纂委員会)／韓・中・日の海洋認識と海禁(이문기・장영익・유인주)／中国考古学年鑑2012(中国考古学会 主編)／東洋学文獻類目二〇一(京都大学人文科学研究所)／江蘇省地方誌(DVD-ROM)(凱希メディアサービス)／澳門刑事訴訟法分論・澳門特別行政区法律叢書(邱庭彪)／港澳基本法要論(黃志勇)／澳門國際私法・澳門特別行政区法律叢書(塗広建著)／一国兩制与澳門特區制度建設(冷鉄勲著)／海峡兩岸关系发展簡史(于保中・陈新根著)／把世界带进中国…从澳門出发的中国近代史(程美宝)／凉山地区多元化糾紛解決机制研究・以彝族為例(張邦輔)／同善堂与澳門華人社会(黃雁鴻著)／澳門紀事・18、19世紀三个法国人的中国观察(許平陆意)／接觸言語(マーク・セバ・田中孝顯 訳)／Migration in China and Asia : Experience and policy (Zhang, Jijiao)／The Hong

Kong Companies Ordinance (Alice Leung)／中国年鑑2014(中国研究所)／中国人口年鑑2013(中国社会科学出版社)／東南アジア 歴史と文化43(山川出版社)／中国統計年鑑2014(中国統計出版社)／アジア長期經濟統計3 中国(南亮進・牧野文夫)／『サル化』する人間社会(山極寿一)／太平洋文明航海記(塩田光喜)／家族と社会の經濟分析(山重慎二)／人口減少社会という希望(広井良典)／グローバル經濟史入門(杉山伸也)／經濟史入門(川勝平太)／3・11に生れた君へ(君の椅子)プロジェクト)／The History of Development : From Western Origin to Global (GILBERT RIST)／海洋帝国興隆誌(玉木俊明)／じゅうぶん豊かで、貧しい社会(ロバート・スキデルスキー・エドワード・スキデルスキー・村井章子 訳)／Lost in Mali: An Ethnography of Middle Class Jakarta in the 1990's (Lizzy Van Leeuwen)

東洋大学アジア文化研究所研究年報 投稿規程

1. <目的>

『アジア文化研究所研究年報』（以下、本誌という）は、東洋大学アジア文化研究所（以下、本研究所という）の機関誌であり、広くアジアにかかわる研究成果をとりまとめて、原則として毎年1回、年度末をめどに刊行する。

2. <投稿資格者>

本誌への投稿資格者は以下の者とする。

- (1) 本研究所の研究員・客員研究員。ただし研究員の共著においては、共著者の所属は問わない。
- (2) 本研究所の院生研究員。投稿については、本研究所院生研究員内規の定めに従う。
- (3) 本研究所の運営委員会が特別に依頼した者。

3. <原稿区分>

本誌に掲載される原稿は、一般投稿原稿・プロジェクト報告原稿・それ以外のものに分ける。

4. <採択>

投稿資格者には春学期期間中に事前の投稿希望を調査する。投稿原稿の調整や掲載の採否などは本研究所運営委員会において審議のうえ決定する。

5. <東洋大学学術情報リポジトリ登録>

投稿希望者は、投稿希望調査に際して、東洋大学学術情報リポジトリに登録し原稿を電子的に複写してインターネットでアクセスできるようにすることの諾否を選択し、本研究所運営委員会に伝える。意思表示のない場合は、登録を承諾したものとみなす。

執筆要領

1. 投稿原稿は、図表・写真・注記・参考文献などを含めて、使用言語が、日本語・ハングルなどの場合は、400字詰原稿用紙80枚以内（40字800行以内）、中国語の場合は400字詰原稿用紙50枚以内（40字500行以内）で作成すること。アルファベット表記の外国語の場合は、13,000語以内で作成することとする。プロジェクト報告書に関しては運営委員会において審議の上で枚数を決定する。
2. 投稿原稿は、原則としてパソコンのワープロソフトで作成し、電子媒体（① word もしくは一太郎と② PDF の2種類）とプリントアウトしたものを双方を提出することとする。電子媒体は指定のアドレスにメールで送信すること。紙媒体のものは郵送、持参のいずれも可とする。また事務連絡の必要上、連絡先（住所・電話・FAX・Eメールアドレスなど）を明記すること。
3. 原稿提出締切日、採択の場合の著者校正などの日程は本研究所運営委員会より別途連絡する。
4. 投稿原稿には、以下のものを、順に記載すること。①題名（副題がある場合には副題も）、②著者名、③所属・身分（東洋大学以外に本務先がある場合には本務先も）、④本文、⑤注記・参考文献（引用文献）

※なお、日本語投稿原稿の場合は英文情報（題名・著者名・所属・身分）、外国語投稿原稿の場合には和文情報（題名・著者名・所属・身分・要旨200字）を合わせて提出すること。

*申請後の題名の大幅な変更は認めない。

5. 図・表・写真を添付する場合は、以下のことに留意すること。
 - (1) そのまま原稿として使用できる状態で提出をすること。
 - (2) 本文における挿入箇所は投稿原稿の欄外に赤字で指示を明記すること。
 - (3) 通し番号・記号・キャプションを付す場合には投稿原稿の欄外に赤字で指示を明記すること。
 - (4) 図・表・写真に関しては、運営委員会の判断により、点数・大きさなどを変更する場合がある。
6. 提出原稿は、付記の表記法にもとづき、完成原稿の希望に準じて提出すること。
7. 外国語特殊文字に関しては、投稿原稿の当該部分に赤丸をつけ欄外に赤字で指示を明記すること。
8. 投稿原稿は採否にかかわらず原則返却しない。
9. 不明な点は、本研究所運営委員会編集担当および本研究所付事務方に問い合わせるものとする。

付則：投稿規程の改変

本投稿規程は必要に応じて運営委員会の議を経て改定するものとする。

（2014年11月22日改定）

アジア文化研究所研究年報―二〇一四― 第四九号

二〇一五年二月一六日 印刷
二〇一五年二月二七日 発行

編集兼
発行人

松 本 誠 一

印刷所

新村印刷株式会社
東京都千代田区九段北三―三―五
電話 〇三―三二六四―六五一四

発行所

アジア文化研究所

旧・アジア・アフリカ文化研究所

〒112-8606 東京都文京区白山五―二八―二〇
(東洋大学内)

電話 〇三―三九四五―七四九〇

Annual Journal of the Asian Cultures Research Institute

2014

No.49

A Prefectural Governor Jing Yun and his Surroundings, Described by " the monument for Han Qu Ren Lin Jing Jun " (the first rubbing copy)IIZUKA Katsushige ...	1
The Change in the Type of the Dynasty Name " Sui " in the Early Tang Period : Concerning the Discovered <i>Emperor Yangdi Epitaph</i>TAKAHASHI Tsuguo ...	42 (261)
Between two Policies of Indigenous Customs Preservation and Imperial Assimilation : Dilemma of Government-General of Cho-sen at Colonial ChosŏnYOSHIKAWA Mika ...	64 (239)
Yoshitsura Hōgen and his <i>Toruko kō kiji</i> or <i>An Account of Travels to the Ottoman Empire</i>OKUYAMA Naoji ...	81 (222)
Juichiro IMAOKA as the Activist of Turanism..... Sinan LEVENT ...	102 (201)
Fair Trade Retailers in Niigata Prefecture, Japan NEJIMA Susumu, ISHIZUKI Sayumi ...	115 (188)
Japanese-Chinese Translations An Analysis of the Chinese Translations of the 'Vox Populi,Vox Dei' (2013.5.29)XU Sanyi ...	125 (178)
A Study of Korean Curriculum and Japanese Textbook.....KOZAWA Yasunori ...	138 (165)
Current Situations and Roles of Man Clansmen Association in the NetherlandsYAMAMOTO Sumiko ...	152 (151)
Protecting Weaker Parties in Chinese Private International Law..... JO Zuisei ...	170 (133)
A Study of the Lineage System of the Cham People in Ninh Thuan Province,Vietnam NAKAMURA Rie ...	182 (121)
The Multiple Socio-Historical Backgrounds of the Adoption of Hangul in Vernacular Education in Indonesia: The Decentralization, Globalization, and Preservation of an 'Endangered Language' YAMAGUCHI Hiroko ...	198 (105)
Changing International Investment for Global Sustainable Development OTA Tatsuyuki ...	213 (90)
<hr/>	
Relations of Western Law and Local Customs of East Asia and Southeast Asia	272 (31)
Dynamics of Ethnic Re/Formation among the Border Societies: Comparative Area Studies on Southeast Asia and East Asia.....	302 (1)
<hr/>	
Research Reports.....	303
Study Meetings.....	307
Announcement	314
